

研究主題

主体的・対話的に学ぶ生徒の育成

副題

～地域資源，ICT 機器などを活用した授業を通して～

I 研究の内容

1 主題設定の理由

現代の社会は目まぐるしいスピードで変化が進み，子どもたちが活躍する頃には厳しい挑戦の時代を迎えると言われている。グローバル化の進展，絶え間ない技術革新により，社会構造や雇用環境は大きく変化し，今までの価値観だけでは対応できない社会がくることも予想されている。そんな中，学校教育に求められているものには，「子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い，他者と協同して課題を解決していくこと」，「様々な情報を見極め，知識の概念的な理解を実現し，情報を再構築するなどして，新たな価値につなげていくこと」，「複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになること」が求められている。また「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト」においても，Q-U 検査を活用した学級づくり，授業づくりを行い，「思考力」，「判断力」，「表現力」の育成をはじめとする学習活動の課題を洗い出し，甲州市児童生徒の確かな学力の定着・向上を図っている。その中でも「主体的で対話的な深い学び」の視点からの授業改善が求められている。

本校は，全校生徒 23 名の少人数の学校である。「目が行き届き，細やかな指導ができる」ことや「学年・性別関係なく仲が良い」こと，「全員に活躍の場が与えられる」などの利点が挙げられるが，「固定化した人間関係」や「コミュニケーション能力の不足」などの課題が挙げられる。地域の人々は学校に協力的であり，地域人材などを活用した授業を通して，より一層学校とのつながりが密になってきている。また，ICT 機器を活用した授業も積極的に行い，タブレットや TV 会議システムを利用した授業にも積極的に取り組んできた。昨年度の課題として，地域資源を活用した授業について小学校との連携をどのようにしていくか，総合的な学習だけでなく各教科にどのように取り入れていくか，また ICT 機器の利用にはメリットがあるが，機器の進歩は目まぐるしく，その進歩に全ての教師が対処しながら活用していることについて課題が残った。今年度は，昨年度の成果と課題をふまえ，変化に柔軟に対応できる生徒の育成を目指し，地域人材や ICT 機器を利用した授業を通して，地域を大切に作る生徒をはぐくむとともに，「主体的に学ぶ生徒の育成」を目指した研究を進めていきたいと考え，主題を設定した。

2 具体的な研究内容

(1) 地域資源を活用した授業づくり

ア：地域・保護者との連携

イ：地域人材の活用

ウ：地域で学び，地域に生活する一人としての誇りを持つ

(2) ICT機器を利用した学習活動の工夫

ア：ICT機器の有効な活用方法や指導法の研究・検証

イ：一人一台パソコンの活用方法の研究

(3) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトと連携した学力の向上

ア：甲州市「ティーチャーズ・ノート」を基盤とした授業づくり

イ：Q-U, NRT 検査をもとにした学級づくり, 授業づくり

ウ：やまプロノートを使用した家庭学習への指導

3 研究の経過

(1) 地域資源を活用した授業づくり

ア：1年社会・総合によるふるさと学習

イ：地域人材による道德の授業

(2) ICT機器を利用した学習活動の工夫

ア：2年国語科によるICT機器を利用した研究授業

(総合教育センター 研修指導課 後藤 由紀指導主事招聘)

イ：ipad, edutab, GIGA 端末の活用方法についての学習会

(3) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトと連携した学力の向上

ア：Q-U 検査の分析と今後の取り組み

イ：NRT 検査の分析と今後の取り組み

ウ：学習のふりかえりとやまプロノートへの取り組み

II 成果と課題

1 成果

- ・コロナ禍であったがICT機器の利用によって、研究を進めることができた。
- ・今まで本校で行ってきた学習（地域に関わる）を整理することで教科・領域などのつながりを意識することができた。
- ・地域資源を利用した学習を行うことで、子どもたちが地域を意識し、自分たちは地域の人々に支えられていることを実感することができた。地域で自分たちが何ができるかを考え、生徒会行事にも活用することができた。
- ・Q-U, NRT 検査の分析から教科、特別活動での指導の工夫をそれぞれ考え、実践することができた。

2 課題

- ・GIGA 端末が年度途中からの導入であったため、教職員も十分に使用方法について十分に研究できていない。来年度に向けて効果的な利用について考えていきたい。
- ・地域資源を生かした学習ではコロナなどの影響により今まで通りの学習を行っていくことは難しくなっている。題材設定や実施方法の工夫が必要である。
- ・年々やまプロノートの質は上がっているが、個々の差が大きいと感じる。集団としてもっと質の高いものにするための工夫が必要である。

(研究主任 石田 周子)

夫工の通商醫學式J用時を器辦TCTI (2)
 通商・通商の通商醫學式用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式用時を器辦TCTI : 7

通商の通商 (2)

通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI (1)
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7

通商と果類 II

果類 I

夫工の通商醫學式J用時を器辦TCTI (2)
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7

果類 II

夫工の通商醫學式J用時を器辦TCTI (2)
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7
 通商の通商醫學式J用時を器辦TCTI : 7

(平開 田部 通商醫學)